# さくらタイムス　令和５年　１月号

新年おめでとうございます。

今年のお題は「強い想い」です。

28 年前、阪神大震災の時、東京の官邸より早く事態を受けた NHK ワシントン支局から速報で全米へ神戸支局内の「激震映像」が流されました。さくらは呼出音ばかりで、両親は安否不明。電話で調べると、関空から阪神甲子園までは行けると分かりすぐに飛行機を予約、自転車のヘルメットだけをリュックに発とうとした時点で、徳島の叔父から「必ず確認するから待て」と言われました。その後、両親の寝室がある 4 階が崩落するイメージと闘いながら待つこと 18 時間、「二人とも無事」と連絡を受け放心状態となり、室内にはいられず、氷点下の夜にふらふらと外へ出ました。すぐ近くにワシントン大学のキャンパスがあり、広場で直径 30mほどの円陣を学生達が二重に組んでいました。通行人に「Beef の Kobe が大変なんだ、一緒に祈って！」と声掛けをし、どんどん増える人々が片手にキャンドルを掲げ「Kobe, Kobe, Kobe……」と優しく呼んで下さっていました。英語では「こうびい、こうびい、こうびい」と聞こえるのを新鮮に感じながらも、その祈りの優しさと力強さに涙が止まらず、少し離れた木にもたれかかって感動に震えていました。後ほど父に話したら、「大桝町は四分の三が全壊で、まともに立っていたのはうちと向いのマンション他数軒だった。さくらを避難所にし無我夢中で食糧調達や市役所への報告に走り回っていたが、何か見えない力に押されているようで頑張れた。きっと世界中から祈ってもらってたんだね」と言っていました。今に比べ「災害」が少なく、世界から Kobe への「集中」は物心ともにすごかったようです。当時のワ

シントンは成田発直行便最長の NY 便に続く長い路線にあり、日本との時差は冬季で 14 時間、まだネット環境も十分でなく、故郷から遠いと常に感じていました。それほど「離れた」地のために「Beef の Kobe」だけを起点として、あれほどの祈りを、強い想いを送って下さった人々には今でも涙が出るほど感謝しています。

そして今、世界中が先の見えない暗闇に複数の「災害」と共に閉じ込められる中、私たちにできることは、やはり「必ず良くなる！」と信じて「強い想い」を保ち続けることだと思っています。愛しい家族を親族を想い、友人を想い、地域の人々を想い、それから世界中どこでも同じように人々の温かい繋がりがあることをイメージしてひたすら「強く想い合う」、これを今年のお題とさせていただきたいです。

一年間どうぞよろしくお願いいたします。

園長　山内　香幸